

7 農林水産業協力事業

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績					予 定					分 野 等										
		4	5	6	7	8	7	8	9	10	11		12									
(インドネシア) 中堅技術者養成計画 ① 協力期間 (B/D) 57.3.27 - 57.3.28 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業省 農業教育訓練普及庁 ④ 協力概要(第2年次) 農業普及員等の中堅農業技術者の資質向上を図るため、農業教育訓練普及庁が行う訓練事業を支援していくので、55年度は、専門家を派遣、機械供与、研修員受け入れのほか巡回指導チームの派遣、ローカルコスト負担事業等を行う。	調査団派遣												巡回指導 4名 × 15日									
	専門家派遣 長期 7名 短期 1名 研修員受入 4名	機 材 (千円) 当初計画(47,000) 繰越分( 0) 新規分(47,000)												5名×12月(リターン栽培(2)、農業機械、業務調整) 1名×9月(農業機械) 1名×0.5月(普及計画) 1名×2.5月(農機研修)								
		専 門 家 派 遣 状 況 (短・長期)																				
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継 続 (A)</td> <td>新 規 (B)</td> <td>帰 国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>6</td> </tr> </table>												継 続 (A)	新 規 (B)	帰 国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	5	1	—	6
	継 続 (A)	新 規 (B)	帰 国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																		
人 数	5	1	—	6																		
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継 続 (A)</td> <td>新 規 (B)</td> <td>帰 国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>6</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> </table>												継 続 (A)	新 規 (B)	帰 国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	6	—	1	5
	継 続 (A)	新 規 (B)	帰 国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																		
人 数	6	—	1	5																		
(フィリピン) カガヤン農業開発 ① 協力期間 B/D 57.2.27 ~ 57.2.21 M/A 57.2.22 ~ 57.2.21 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 CIADP事務局 ④ 協力概要(第5年次) カガヤン地域の基盤整備にもとづく農業の生産性向上に貢献するため、パイロットセンター及び肥後普及地域を対象に協力活動を実施する。55年度は専門家派遣、機械供与、研修員受け入れ及び巡回指導チーム派遣を行う。	調査団派遣												巡回指導 3名 × 16日									
	専門家派遣 長期 6名 短期 2名 研修員受入 3名	機 材 (千円) 当初計画(41,500) 繰越分( 0) 新規分(41,500)												1名×5月(かんがい) 3名×12月(普及、栽培、農業機械) 1名×7.5月(リターン) 1名×10月(業務調査) 1名×5月(リターン) 1名×2.5月(業務調査) 1名×0.5月(かんがい)								
		専 門 家 派 遣 状 況 (短・長期)																				
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継 続 (A)</td> <td>新 規 (B)</td> <td>帰 国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>6</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> </table>												継 続 (A)	新 規 (B)	帰 国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	6	—	1	5
	継 続 (A)	新 規 (B)	帰 国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																		
人 数	6	—	1	5																		
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継 続 (A)</td> <td>新 規 (B)</td> <td>帰 国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>6</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> </table>												継 続 (A)	新 規 (B)	帰 国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	6	—	1	5
	継 続 (A)	新 規 (B)	帰 国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																		
人 数	6	—	1	5																		

(農林水産協力事業一統表)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績							予定			分野						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
(エジプト) エジプト米作機械化計画 ① 協力期間 ( ) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業省 ④ 協力概要(第1年次) ⑤ エジプトの小規模経営者層に適した農業機械及び機械化体系の選定、 ⑥ 農業機械の操作及び維持管理のあり方、システムの研究。 ⑦ 機械化を普及させるための機械化農業のデモンストレーション55年度は長期調査員及び実地指導チーム派遣を行う。	調査団派遣																	
	専門家派遣 長期 0名 短期 3名 機材(千円) 当初価( 0 ) 繰越分( 0 ) 新規分( 0 ) 研修員受入 0名																	
バングラデシュ農業普及計画 ① 協力期間 ( ) 1. 50.3.14~50.10.12(8ヵ月) 2. 52.10.13~58.10.12(協定) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農林省中央農業普及技術開発研究所 ④ 協力概要(第6年次) 中央農業普及技術開発研究所における(1)農業普及のための方法及び技術素材の開発(2)農業技術実用化試験の普及員養成のための教員養成と技術担当官の訓練の普及実地(3)シヤガの設置、運営に協力する。55年度は巡回指導チームの派遣、専門家派遣、機械供与、カウンセラー受入を行う。	調査団派遣							10/20	10/29									
	専門家派遣 長期 7名 短期 2名 機材(千円) 当初価( 76,587 ) 繰越分( 7,587 ) 新規分( 69,000 ) 研修員受入 3名																	
		巡回指導チーム(先発)適正技術開発 10/20 - 10/29 " (後発) 10/25 - 11/8 継続 7名 園芸 普及 4/9 農村青年教育 7/30 4/9 栽培 7/30 4/9 視察見学 6/7 研修 生活改善 7/15 農業普及 11/8 12/1 - 1/31 12/1 - 1/31 12/1 - 1/31													専門家派遣状況(短、長期) 継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C) 人数 9 2 4 7			
		(長期) リーダー、栽培、普及、土肥、機械工学、農業機械化、調整(現在7名) 園芸 (短期) 農村青年教育、栽培、圃間、生活改善、ベンチマーク、病虫害、施工管理、ポンプ、グリーンハウス													派遣予定 人数 9 2 4 7			

(農林水産業協力事業—続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定						分野等
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
( ) インドネシア作物防除計画 ① 協力期間 (5ヶ年) 55.6.18—60.6.17 (R/D) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業者食用作物総局 食用作物保護局 ④ 協力概要(第1年次) 稲病虫害防除のための発生予察と、その防 疫指導体制強化のため、西ジャワ州モデル として実施することとする。ジャチサリ、ボ ゴールに於て、実験研究の指導を行い、ジャ カルタにおいて農業管理の指導を行う。 55年度は、協力の基本計画作成のために 長期調査員3名の派遣専門家派遣を行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 4名 短期 0名 機材 (千円) 当初計画 (40,000) 繰越分 (0) 新規分 (40,000) 研修員受入 2名													計画打合せ3名 1名×3.5月(昆虫) 3名×0.5月(リーダー・昆虫・業務経理) 専門家派遣状況(短・長期) 継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C) 人数 0 0 0 0
(ブラジル) 農業研究 ① 協力期間 (協定) 52.9.30—57.9.29 補正取極 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農務省ブラジル農業試験研究公社 ④ 協力概要(第3年次) セラート地域の農業開発に資するため同地 域の農業生産システム確立に必要の調査研究 に協力する。55年度は、専門隊派遣、機材 供与及びカウンターパート受入れ巡回指導チ ームの派遣を行う。	調査団派遣 巡回指導チーム 計画打合せチーム 専門家派遣 長期 7名 短期 6名 機材 (千円) 当初計画 (82,865) 繰越分 (5,865) 新規分 (82,000) 研修員受入 5名 { 一般3名 視察2名	X												4名 25日間(ウルブアイ野菜と合同) 3名 20日間 団長、植物病理、昆虫、土壌 各1名 作物栽培2名 団長、植物病理、昆虫、土壌 各1名 作物栽培2名 調整員1名 土壌、気象、機械肥料、栽培 各1 (55年度派遣) 機械肥料1名 農業経営1名 専門家派遣状況(短・長期) 継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C) 人数 11 4 8 7 農業気象1名 土壌物理1名 農業機械1名 高級視察2名

(農林水産業協力事業一統表)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績							予定					分野等						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3							
(ビルマ) 農業開発 ① 協力期間 ( ) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業省 ④ 協力概要(第1年次) ビルマにおける農業開発の推進に資するため、地域農業試験場施設計画等のプロジェクト設置検討のため、長期調査員の派遣を行う。	調査団派遣															1名×2月(長期調査員) 専門家派遣状況(短・長期)				
	専門家派遣 長期 0名 短期 0名 長期調査員(1名)	機材(千円) 当初償還( 0 ) 繰越分( 0 ) 新規分( 0 )																		
	研修員受入 0名															人数	0	0	0	0
(インドネシア) 農業研究 ① 協力期間 ① 45.10.23~52.10.22(協定) ② 53.10.23~58.10.22(B/D) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業省 ④ 協力概要(第2年次) 同国本ゴール市にあるインドネシア中央農業研究所において、作付体系を構成する豆類及び他の食用作物(米、トウモロコシ、根菜作物)に関する育種、栽培、水管理、雑草防除等に関する協力。55年度は巡回指導の派遣、専門家派遣、機材供与、カウンターパート受入れを行う。	調査団派遣								○	○						計画訂合せ3名/5日間				
	専門家派遣 長期 7名 短期 8名	機材(千円) 当初償還(76,899) 繰越分(16,899) 新規分(50,000)															水稲栽培、植物生理、昆虫各1名 団長、畑作栽培、植物病理、調整員各1名 水稲栽培/名 植物生理、昆虫各1名 植物病理(53.2.27~55.5.26)/名(55年度派遣) 畑作栽培/名 植物生理/名 稲栽培、機械修理各1名 植物病理/名 灌漑施設2名			
	研修員受入 視察 2名 一般 4名															専門家派遣状況(短・長期)				
																継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在担任者数 (A)+(B)-(C)	
																人数	7	4	4	7
																準高級/名 1名 D1取得/名 土壌肥料/名 植物病理/名 育種/名				

(農林水産業協力事業—続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定						分野等								
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3									
(イ) 国立植産科学研究所 ① 協定期間 (R/D) 55.4.18 ~ 60.4.17 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業協同組合省 ④ 協力概要(第1年次) 雑草コントロールの基礎的研究と実践的指導を各試験場及び農家で実施する。55年度は、実施協議チーム派遣を行いR/Dを締結した。 また、専門家派遣、計画打合せチーム派遣、機材供与等を行う。	調査団派遣 実施協議チーム 計画打合せチーム 専門家派遣 長期 3名 短期 1名 機材(千円) 当初計画(40000) 繰越分(0) 新規分(40000) 研修員受入 名	0	x											11名 15日間 3名 15日間 1名×7月(リーダー) 1名×3月(雑草防除) 1名×2月(雑草生態) 1名×2月(除草剤) 専門家派遣状況(短・長期)								
												<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数(A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	0	1	0	1
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																		
人数	0	1	0	1																		
												機番分析 1名										
(ブラジル) リベイラ川流域農業開発 ① 協定期間 (R/D) 50.3.10 ~ 補定取極締結まで ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 サンパウロ州 農務局 ④ 協力概要(第6年次) サンパウロ州リベイラ川流域の農業開発を推進するため、適作物の選定等実用試験と普及員の訓練並びにこれら開発された技術の普及等の機能を有する開発センターを設置し、これに協力する。55年度は専門家派遣、機材供与、カウンターパート受入れ及び、巡回指導調査団を派遣する。	調査団派遣 専門家派遣 長期 7名 短期 0名 機材(千円) 当初計画(53100) 繰越分(3100) 新規分(50000) 研修員受入 一般 3名 準高級 1名												巡回指導 4名×20日 5名×12月(テクニカルアドバイザー、農業経営、農業工本(2)栽培) 1名×1月(農業土木) 1名×5月(リーダー) 1名×12月(業務調整) 1名×7.5月(リーダー) 1名×1月(業務調整) 専門家派遣状況(短・長期)									
												<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数(A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	8	1	2	7
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																		
人数	8	1	2	7																		
												野菜栽培1名、機械維持管理1名、農薬開発計画1名、視察1名										

(農林水産業協力事業—続—)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定						分野等							
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3								
(タンザニア) キリマンジャロ農業開発 ① 協力期間 (R/D) 55.9.10 ~ 57.8.12 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 大蔵省 ④ 協力概要(第9年次) キリマンジャロ州の農業開発のため、農業開発センターを設置し、ローアモラ地域農業開発のための基礎整備に対するアドバイス普及サービス活動を行うとともに農業機械センターセンターにおいて農業機械の使用等と指導する。55年度は専門家派遣、研修員受入れ、機械供与及び計画打合せ調査面の派遣並びにモデルインフラ整備を行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 3名 短期 0名 機械(千円) 当初備(78,000) 繰越分(10,000) 新規分(68,000) 研修員受入 一般 準高級 2名 3名					←													計画打合せ 8/24 ~ 9/9 3名 1名×4月(栽培) 2名×2月(リ-タ-機械) 専門家派遣状況(短・長期)		
																					継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C) 人数 0 0 0 0 農業機械整備1名 栽培1名 視察3名
(ネパール) ジマナカプー農業開発 ① 協力期間 46.11.26 ~ 49.11.6 (R/D) 47.11.7 ~ 54.11.6 (協定) 54.11.7 ~ 57.11.6 (R/D) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 食糧農業省 ④ 協力概要(第9年次) 農民の所得増加と、生活水準向上を目的とし、(1)ハルティート普及農場(42ha)での改良農業技術の導入、演示及び普及(2)プロジェクトセンターの設置、運営(3)深開戸かんがい地区(420ha)での基礎整備と集約農業の普及、(4)山麓地区での展示農場の設置運営と巡回指導及び開発計画の策定への協力(5)深開戸かんがい地区(ヤライ)へのかんがい農業の普及。55年度はモデルは場実家設計チームの派遣、専門家派遣、機械供与を行っている。	調査団派遣 専門家派遣 長期 7名 短期 4名 機械(千円) 当初備(48,68) 繰越分(5,68) 新規分(43,000) 研修員受入 3名					←	←												実地設計チーム 5名×12月(理事長、栽培、かんがい(2)、調整員) 1名×2.5月(農業機械) 2名×7月(普及計画、農業機械) 1名×2.5月(地質) 3名×2.5月(施工監理、園芸、農具改良) 専門家派遣状況(短・長期)		

(農林水産業協力事業—続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績					予定					分野等			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3	
(インドネシア) 南スラウエシ地域農業開発 ① 協力期間 51.12.25～54.6.24 (R/D) 54.6.24～56.6.23 (R/D) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業省官房計画局 ④ 協力概要(第4年次) 南スラウエシ地域農業に関する調査及び分析、同地域農業開発基本計画の検討及び報告、かんきつ、草地改良及び林地の改良のためのパイロット・テストの実施を行う。それらのフィジビリティ・スタディを行う。 55年度は巡回指導チーム、専門家派遣、機材供与、カウンターパート受入れを行っている。	調査団派遣			← 3/25 →	← 7/11 →									巡回指導チーム	
	専門家派遣 長期 6名 短期 3名			① →		← ② →				④ →				リーダー、アドバイザー、調整、かんきつ、植林、草地 ①農業土木、②施工管理、③土地保全、病状害	
	機材(千円) 当初計画(22,000) 繰越分(5,000) 新規分(24,000)			← Δ →											専門家派遣状況(短・長期)
	研修員受入 5名														かんきつ、植林、草地、視察2名
(マレーシア) 水管理訓練計画 ① 協力期間 52.9.3～57.9.2 (R/D) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業省排水灌漑局 ④ 協力概要(第3年次) ケランタン州エタバル市に水管理訓練センターを設置し、技術者を養成する。センター所属のデモンストレーションファーム1か所(4.5ha)及び周辺に4か所(各20ha)のパイロットファームを作りかんがい農業の演示に協力する。 55年度は専門家派遣、機材供与、研修員受入及び巡回指導チーム派遣を行う。	調査団派遣						← 10/13 →	← 11/6 →						巡回指導(タイかんがいと合同)	
	専門家派遣 長期 4名 短期 1名													2名×12月(栽培、かんがい) 1名×2月(業務調整) 1名×4月(リーダー) 1名×10月(水管理) 1名×8月(業務調整) 1名×5.5月(リーダー) 1名×2月(排水施工)	
	機材(千円) 当初計画(10,000) 繰越分(0) 新規分(10,000)			← Δ →											専門家派遣状況(短・長期)
	研修員受入 高級 1名 一般 1名					← 2週間 →									視察(1) 地下排水(1)

(農林水産業協力事業—続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績						予 定						分 野 等					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	人 数	継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	
(パラグアイ) 農業開発計画 ① 協力期間 57.3.16~57.3.15 (8日) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農 牧 省 ④ 協力概要(第2年次) 地域農業の試行体系及び機械化農業体系の 確立を目的として、カピタンミナン中央地域 農業試験場を中心に農業機械操作、稲作栽培 技術及び植樹管理等の指導訓練への協力。55 年度は専門家派遣、機材供与、研修員受入 及び計画打合、巡回指導チームの派遣を行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 6名 短期 1名 機材(千円) 当年度(100,006) 繰越分(6,006) 新規分(74,000) 研修員受入 高級 1名 一般 3名			←→					←→										
		計画打合せチーム(6月) 巡回指導チーム(11月) 3名×12月(総経理、CRIAリーダー、育成) 1名×7月(CEMAリーダー) 1名×5月(機械) 1名×1月(土壌肥料) 1名×4月(農工監理) 専門家派遣状況(短、長期)																	
														人 数	3	0	0	3	
														視察(1) 小麦育種(1)、とうもろこし育種(1)、機械工学(1)					
(タイ) かんがい農業開発 ① 協力期間 57.4.8~57.4.7 (8日) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業、協同組合省 ④ 協力概要(第4年次) タイの米生産の増大及び水期作地域の拡大 に貢献することを目指しチャオホア及びクワン 地区において圃場整備の促進、農業生産技術 の改良及び普及並びに農民組織の開発強化へ の協力。55年度は巡回指導の派遣、専門家派 遣、機材供与、カンランパート受入川を行なう。	調査団派遣 専門家派遣 長期 14名 短期 1名 機材(千円) 当年度(126,671) 繰越分(1,671) 新規分(125,000) 研修員受入 高級(準高級)2名 一般 2名						← 19/3	→ 1/1											
		巡回指導(マレーシア水管理と合同) (センター) リーダー、かんがい排水 農業経済調整 (チャオホア) かんがい排水、圃場整備 1名 1名 1名 1名 1名 (チャオホア) 栽培1名、農業機械1名、普及1名、(クワン)かんがい排水、圃場整備栽培 (スワン)栽培2名 普及(予定)1名 施工管理1名、ポンプ修補1名(予定)、機 修補1名(予定)																	
														人 数	14	1	1	14	
														視察2名(予定) 視察2名					



(農林産業協力事業一続き)

(国名) プロジェクト名称	協力内容	実績							予定			分野等			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
(インドネシア) リモートセンシング技術開発 プロジェクト名称 ① 協力期間 55.4.1 ~ 60.3.31 (R/D) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 公共事業省 ④ 協力概要(第1年次) リモートセンシング技術を利用してインドネシア国のスラウエシ、カリマンタン、スマトラにおける農業資源の調査を行い、土地分類、土地利用状況、開墾適地の分析を行う。55年度は専門家派遣、機材貸与、研修員受入及び計画打ち合チームの派遣を行う。	調査団派遣 4名 14日間 専門家派遣 長期 0名 短期 0名 機材(千円) 当初計画(128,917) 繰越分(24,177) 新規分(127,500) 研修員受入 高級(準高級) 1名 一般 1名							11/11	11/20					計画打ち合 4名 11/7 ~ 11/20 (予定) 2名 x 0.5月 (リーダー、農業研修、業務調整) 専門家派遣状況(短、長期) 継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C) 人数 0 0 0 0	
(インドネシア) ランポン農業開発計画 ① 協力期間(協定) 第1期 47.11.11 ~ 52.11.13 第2期 52.11.14 ~ 55.11.13 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業者食糧作物総局 ④ 協力概要(第2年次) 農業普及センターでの改良農業技術の試験普及の訓練、現地調査、助言等を行い、また下部ランポンの普及農場で改良耕作技術の演示及び普及、中部、南部ランポン州での改良耕作、栽培技術の演示及び普及活動に対する協力。55年度はエバチームの派遣、専門家派遣、機材貸与、カウンターパート受入を行う。	調査団派遣 エバリュエーション 専門家派遣 長期 7名 短期 1名 機材(千円) 当初計画(42,000) 繰越分(4,000) 新規分(38,000) 研修員受入 2名			4/23	7/12								20日 x 5人 2名 x 12月 (稲作普及、農業機械) 5名 x 2.5月 (リーダー、病害、栽培、農業普及、業務調整) 1名 x 0.5月 (土壤肥料) 1名 x 1月 (病虫草害) 専門家派遣状況(短、長期) 継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C) 人数 8 0 1 7 農業協同組合 農業機械整備 (注)協定は1年、1月に過ぎるが、プロジェクトアップのため、2名を1.5名と見込み、年明延長する予定である。		

(農林水産業協働事業 一続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定						対 象 等	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
(韓国) 農業研究計画 ① 協力期間 (7年10ヵ月) 協定 49.6.7 ~ 54.6.6 R/D 54.6.7 ~ 57.3.31 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農村振興庁 ④ 協力概要(第7年次) 安全多収品種、作物の栄養生理・水分生理及び生態、土壌肥料、野菜の生産増大と品質向上、作物保護の5項目に対し、専門家派遣、研修員受入、機材供与を行う。	調査団派遣 計画打合せ 専門家派遣 長期 1名 短期 11名  機材(千円) 当初計画(38,20) 繰越分( 60) 新規分(38,060)  研修員受入 3名													←→ 14日×4人 団長(長期) 養育種、光合成(2人)、機械化栽培(2人)、養殖生理(2人)、作物保護(2人)、水稲物理性、施設園芸  専門家派遣状況(短・長期)	
				0	△					0			X		継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C)
						4/0	7/1								人数 1 10 6 5
			5/2												機材 養殖生態('81/4/30まで) 栄養生理障害(17年)
(タイ) 家畜衛生 ① 協力期間 (R/D) 52/3 ~ 57/3/1 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業協同組合畜産振興局 ④ 協力概要(第4年次) 家畜衛生事情の改善をはかるため、(1)畜産振興局に対する家畜衛生企画協力、(2)家畜衛生センターを中心とする家畜疫病の診断、調査・防疫(3)口蹄疫ワクチン大量製造技術の確立と口蹄疫の診断への協力。55年度はアドバイザー2名及び計画打合せチームの派遣、機材供与、カウンターパート受入れを行う。	調査団派遣  専門家派遣 長期 7名 短期 6名  機材(千円) 当初計画(80,000) 繰越分( 0) 新規分(80,000)  研修員受入 4名													←→ 計画打合せ 4名 14日 2名×12月(診断機材、DLCリーダー) 1名×1.5月(病理) 1名×3月(疫学) 1名×11月(FMDリーダー) 1名×10.5月(製造) 1名×10月(ウイルス) 2名×2.5月(疫学、病理) 2名×1月(施設保守(2)) 1名×3月(実験動物) 1名×1.5月(アドバイザー) 2名×3月(ワクチン検定、臨床病理) 1名×1月(施設保守) 1名×1月(アドバイザー)	
															専門家派遣状況(短・長期)
															継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C)
															人数 5 7 4 8
															55年2月2名 56年2月2名

(農林水産業協力の事業一統)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定						分野等										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3											
(ウルグアイ) 野茶研究 ① 協力期間 (R/D) 53 7/19 ~ 56 7/18 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業水産省 ④ 協力概要(第3年次) ウルグアイにおける野茶の生産増大、品質改善、周年栽培を目的として、野茶栽培技術の改良のための研究を行う。55年度は専門家を派遣、研修員受入及び機材の供与を行う。55年度エバリエーションを行い、協力目標の達成度を調べる。	調査団派遣 専門家派遣 長期 3名 短期 6名 機材(千円) 当初計画(41,923) 繰越分(1,923) 新規分(40,000)													エバリエーション 5名 25日間 3名×12月(リーダー、野茶栽培、業務調整) 2名×3月(野茶栽培、病理) 2名×3月(野茶栽培、昆虫) 1名×2.5月(ほたていし栽培) 1名×2月(機械操作)										
	研修員受入 5名														専門家派遣状況(短、長期) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在在任者数(A)+(B)-(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> 55.12月 準高1名 55.5月 1名 " 9月 1名 56.2月 2名		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	3	2	0
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																				
人数	3	2	0	5																				
(インドネシア) 家畜衛生 ① 協力期間 (R/D) 52 7/7 ~ 57 7/6 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農業省、畜産総局 ④ 協力概要(第4年次) スマトラ島、メダン及びタンジェンカラに家畜衛生センターを設立し北南スマトラ地区の地域病調査、診断にこれに関する試験研究技術者の訓練、ソフトウエアの試作等についての協力。55年度は計画打合せチームの派遣、専門家の派遣、機材供与、研修員の受入れを行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 8名 短期 3名 機材(千円) 当初計画(70,000) 繰越分(0) 新規分(70,000)													計画打合せ 4名 10日間 1名×12月(疫学) 1名×7月(リーダー) 1名×7.5月(寄生虫学) 1名×1.5月(疫学) 1名×2.5月(微生物) 1名×8月(微生物) 1名×5月(リーダー) 1名×2月(アドバイザー) 2名×3月(寄生虫、疫学)										
	研修員受入 3名														専門家派遣状況(短、長期) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在在任者数(A)+(B)-(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> 55.5月 準高1名 55.7月 1名 56.1月 1名		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	3	3	0
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																				
人数	3	3	0	6																				

(農林水産業協力事業一続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定			分野等						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
(マダガスカル) 畜産開発 ① 協力期間 (R/D) 52/11/1 ~ 55/11/10 (58/11/10延長) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 地域開発農地改革省畜水産局 ④ 協力概要(第4年次) 同国北部のデイエゴスワレス市近郊の指導 所にて(1)家畜衛生の改善(2)飼料作物の開 発(3)家畜飼養の改善(4)技術者の訓練に対 する協力を実施している 55年度はエバリエーションを行い専門家 派遣 機械供与、研修員受け入れを行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 5名 短期 2名 機材(千円) 当初計画(20000) 繰越分( 0) 新規分(20000) 研修員受入 1名						←→							エバリエーション 5名 55/9/5 ~ 2/29 (25日間) 3名×12月(リーダー、畜産、業務調整) 1名×1月(飼料作物) 1名×4月(飼料作物) 1名×3月(施工監理) 1名×3月(農業機械)			
		専門家派遣状況(短・長期)											継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	
											人数	4	0	1	3		
											55.6月 率高1名						
(ビルマ) 畜産開発 ① 協力期間 (R/D) 53/4/12 ~ 57/4/11 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 畜産公社 ④ 協力概要(第3年次) 畜産経営にかかるとラングーン、10マイル の養豚場、養鶏場、飼料工場及び新設する研 修所の訓練指導への協力。 55年度は専門家の派遣、研修員の受入の 他、機械供与では種豚、種鶏の供与を行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 6名 短期 3名 機材(千円) 当初計画(20462) 繰越分( 462) 新規分(20000) 研修員受入 2名								←→					巡回指導 3人 16日 1名×7月(リーダー) 1名×12月(業務調整) 2名×10月(養豚、養鶏) 1名×5.5月(リーダー) 1名×0.5月(業務調整) 1名×0.5月(機械整備) 2名×3月(養豚、養鶏)			
		専門家派遣状況(短・長期)											継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	
											人数	2	3	1	4		
											56.1月 2名						

(農林水産業協力事業—続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績							予定			分野等																
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3															
(タイ) カセサート大学(研究) ○協力期間(R/D) 55/4/10 ~ 56/4/9 ②予算費目 農林業協力費 ③相手国受入機関 教育省大等局 ④協力概要(第1年次) カンパセンキャンパスに53、54年度無償により建設中の総合研究センター、農業普及センター及び農機具センターにおいて総合的技術協力を行う 55年度はR/Dの締結(4/10)実施し実施設計チーム派遣、専門家の派遣、機材供与、研修員の受入れを行う。	調査団派遣																											
	専門家派遣 長期 1名 短期 4名 機材(千円) 当初計画(40000) 繰越分(0) 新規分(40000)																											
	研修員受入 2名																											
分野等 家畜防疫 4名/11日間(内2名コンサルは50日) 1名×8.5月(リ-ター) 1名×3.5月(種子生産) 1名×1月(醸造) 2名×0.5月(ワザイ、植物病理)																												
専門家派遣状況(短、長期)																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在在任者数(A)+(B)-(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>																				継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	0	1	0	1
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																								
人数	0	1	0	1																								
55.5月1名 56.2月1名																												
(インドネシア) 養蚕開発 ①協力期間 55/3/30 ~ 56/2/27 協定53.2.28 ~ 58.2.27 ②予算費目 農林業協力費 ③相手国受入機関 農業省林業総局 ④協力概要(第4年次) 養蚕センター及びサプセンターを設置し、標準的養蚕技術の確立並びに技術者の指導、訓練に協力を。 55年度は、巡回指導の派遣、専門家派遣、機材供与、カウンターパート受入れを行う。	調査団派遣																											
	専門家派遣 長期 11名 短期 5名 機材(千円) 当初計画(74,301) 繰越分(5,301) 新規分(69,000)																											
	研修員受入 3名																											
巡回指導 5人 55/10/22 ~ 11/6(16日間) 1名×12月(リ-ター) 2名×8月(殺虫、養蚕費) 2名×2.5月(養蚕製造、病害虫防除) 1名×1月(養蚕調整) 2名×4.5月(養蚕費、桑栽培) 3名×7.5月(養蚕製造、病害虫防除、業務調整) 1名×1.5月(ポンプ修理) 1名×2月(園機具) 1名×2月(ポンプ修理) 1名×1月(月戸修理) 1名×1月(普及)																												
専門家派遣状況(短、長期)																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在在任者数(A)+(B)-(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>																				継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	6	5	4	7
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																								
人数	6	5	4	7																								
55.5月3名																												

(農林水産業協力事業—続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定						分野等
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
(インドネシア) ボゴール農大 ① 協力期間 (R/D) 52/10/14 ~ 57/10/13 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 教育文化省、ボゴール農科大学 ④ 協力概要(第4年次) 同大学農業工学、農産加工等部に農産加工 パイロット、プラントを設置し教授、学生、 技術者の養成等の農産加工等の分野におけ る技術の向上への協力。55年度は巡回指導 の派遣、専門家派遣、機材供与、研修員受入 れを行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 7名 短期 3名 機材(千円) 当額画(74,000) 繰越分( 0) 新規分(74,000) 研修員受入 4名												巡回指導 3人 14日 2名×12月(品質管理食品分析、業務調整) 1名×4月(リーダー) 1名×8月(リーダー) 1名×5月(プラント運営) 1名×3.5月(榨油) 1名×0.5月(業務調整) 2名×1月(プラント据付) 1名×3月(ワークショップ)	専門家派遣状況(短・長期)
	継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人数 3 1 1 3	55.10月 準高2名 55.7月 1名 55.10月 1名											
(バングラデシュ) 園芸研究 ① 協力期間 (R/D) 52/11/3 ~ 55/11/2 (58%延長済) ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農林省 ④ 協力概要(第4年次) 園芸研究センター及びバジラアセンターでの (1)かんきつ改良のための基礎研究及び園場適 応試験(2)野菜種子増殖のための基礎研究及 (3)園場適応試験(4)関係機関農園に対する巡 回指導に対する協力。55年度はエバリエーション を実施協力期間の延長を行なう。また専門家 の派遣、機材供与、カウンターパートの受入 れを行なう。	調査団派遣 専門家派遣 長期 7名 短期 3名 機材(千円) 当額画(54,114) 繰越分( 6,114) 新規分(48,000) 研修員受入 2名										エバリエーション 5名 55/5/17~5/31、3名 55/10/25~11/8 2名×12月(野菜、果樹) 2名×3月(リーダー、業務調整) 1名×7月(リーダー) 1名×7月(業務調整) 1名×1.5月(果樹) 1名×2月(育種) 1名×1月(機材据付) 1名×2月(野菜処理)	専門家派遣状況(短・長期)		
	継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人数 4 3 2 5	55.12月 準高1名 56.2月 1名											

(農林水産業協力事業—続き—)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定			分野等												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3										
(タイ) プロジェクト名称等 カセサート大学研究協力(普及、機械) ① 協力期間( ) 未定 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 未定 ④ 協力概要(第1年次) カンパセンキャンパスの施設整備、拡大 計画のため53、54年度無償により建設中の 総合研究センター、農業普及センターおよび 農機具センターに対し、総合的技術協力を 行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 0名 短期 2名 機材(千円) 当初計画( 0) 繰越分( 0) 新規分( 0) 研修員受入 0名												実施協議 4人 16日間 2名 × 2月 普及、機械 専門家派遣状況(短、長期) <table border="1"> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</th> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人数	—	—	—	—
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																			
人数	—	—	—	—																			
(タイ) タイとラオス産業開発 ① 協力期間(R/D) 52/17 ~ 57/16 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 農業協同組合省、総合促進局 ④ 協力概要(第1年次) 栽培に関する実地試験、種子生産調整、機 械化訓練、農協管理研修等の業務を通じ農協 育成強化を行い、タイとラオスの生産性 向上を図る。55年度は計画打合せチーム 派遣及び機械供与、カウンターパート受入と 共に農協指導の専門家1名を派遣する。	調査団派遣 専門家派遣 長期 6名 { 継 5 短期 4名 { 新 1 機材(千円) 当初計画( ) 繰越分( 6,000、現地調達) 新規分( 11,000) 研修員受入 3名											計画打合せ 5人 55/27 ~ 2/10(15日間) リーダー、栽培、機械、採種、農協、業務調整 3/名 フラット保守(2) 排水害、工場 専門家派遣状況(短、長期) <table border="1"> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</th> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> </table> 55 6月 1名 55 6月 1名 55 7月 1名		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人数	6	0	2	4	
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																			
人数	6	0	2	4																			

(農林水産業協力の概要)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績					予定					分野等												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				人数							
(ペルー) 生鮮食品流通改善 ① 協力期間 未定 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 農業食糧省 ④ 協力概要(第3年度) 生産と流通を円滑に結ぶシステムを確立する ための生産物を集出荷する農協の育成等を図 り、野菜・果樹の流通改善を図る協力。53 年度の事前調査を受けて54年度は、3名の 長期調査員を派遣し、ペーの生産流通事情を 詳細に調査すると共にペー国政府と協議し、本 件協力基本構想をわった。55年度はR/D 締結し専門家、機材供与、研修員受入は実 施する計画である。	調査員派遣 専門家派遣 長期 3名 新3 短期 0名 機材(4円) 当初計画(24000) 繰越分( 新規分(24000) 研修員受入 2名												計画打合 5名 27日 リーダー、流通組織、業務調整 各1名 3名 専門家派遣状況(短長期)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在籍者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在籍者数 (A)+(B)-(C)	人数	3	0	3	0
		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在籍者数 (A)+(B)-(C)																			
人数	3	0	3	0																				
(フィリピン) パンタバンガン森林造成 ① 協力期間(R/D) 51.6.18~56.9.30 以後協定により5年間協力の予定 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 BFD(森林開発局) ④ 協力概要(第3年度) 協力の年目に入り昨年まで試験植林を完 全に終了し、本格的に第2段階である試験植 林へ移行し本年度もほぼ当初計画通り900 haの達成を見込んでいる。その他専門家派 遣、機材供与、巡回指導チーム及びカウンタ ーパートの受け入れと行うこととしている。	調査員派遣 専門家派遣 長期 14名 短期 9名 機材(4円) 当初計画(92,000) 繰越分(0) 新規分(92,000) 研修員受入 3名		←→					←→					パイロットインフラ関連巡回指導チーム 機材維持管理巡回指導チーム 4名×12月(経営計画、治山(2)業務調整) 2名×7.5月(チーフアドバイザー、造林) 2名×6.5月(チームリーダー、造林) 2名×6月(チームリーダー、造林) 4名×5月(チーフアドバイザー、造林、流域管理、森林保全) 3名×4.5月(パイロットインフラ関連(2)、会計指導) 2名×2月(森林造成(2)) 2名×2月(流域、森林保全)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在籍者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在籍者数 (A)+(B)-(C)	人数	8	2	0	10
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在籍者数 (A)+(B)-(C)																				
人数	8	2	0	10																				



(農林水産省協力事業-続マ)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績					予 定					分 野 等										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3								
(ビルマ) アラカン林業開発 ① 協力期間 (R/D) 52.12.2 ~ 57.3.31 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 農林省木材公社 ④ 協力概要(第3年度) 伐出集運材、特に架線トラクタ集材に重点 を置いて基礎理論の講義、現地での実習を通 じて技術の移転をばかす。今年は架線、集材 に重点を置いて、専門家派遣、機械供与、カ ウンターパートの受け入れを行うこととして いる。	調査団派遣 専門家派遣 長期 12名 短期 2名 機材(4円) 当初計画(128,000) 繰越分(0) 新規分(128,000) 研修員受入 4名												巡回指導(インドネシアジャワ山岳林と合同) 2名×12月(林業機械、業務調整) 1名×0.5月(ターフアドバイザー) 1名×2.5月(伐出技術) 2名×4月(伐出計画、架線集材) 1名×5月(架線集材) 1名×12月(ターフアドバイザー) 1名×2.5月(伐出計画) 2名×8.5月(伐出計画、架線集材) 1名×8月(架線集材) 1名×2月(伐木) 1名×1月(林業機械)									
												専門家派遣状況(短、長期)										
												<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	7	5	5	7
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																		
人 数	7	5	5	7																		
												1人 林業視察 2人 伐出計画 1人 林業機械										
(インドネシア) ジャワ山岳林 ① 協力期間 (R/D) 53.4.20 ~ 56.4.19 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 林業公社 ④ 協力概要(第3年度) 研修所における基礎講義、演習所における 実習を通じて、ジャワ島中部山岳地帯のメル クシマツの集材技術の移転を行う。55年度 は巡回指導チームの派遣、専門家派遣、機械 供与、カウンターパート受け入れを行う。	調査団派遣 専門家派遣 長期 16名 短期 1名 機材(4円) 当初計画(114,593) 繰越分(4,523) 新規分(110,000) 研修員受入 6名											巡回指導 3名/6日 (ビルマアラカン林業と合同) 1名×12月(取壊技術) 2名×0.5月(チームリーダー、取壊計画) 2名×4月(伐木集材、架線集材) 2名×5月(架線集材、トラクタ集材) 1名×8月(林業機械) 1名×1.5月(業務調整) 2名×12月(チームリーダー、業務調整) 1名×11.5月(取壊計画) 2名×9月(伐木集材、架線集材) 2名×8月(トラクタ集材、架線集材) 1名×3月(林業機械)										
												専門家派遣状況(短、長期)										
												<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	9	7	7	9
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																		
人 数	9	7	7	9																		
												林業視察 2名 林業機械 2名 機械整備1名 伐出計画1名										

( 農林水産業協力事業 - 続き )

( 国 名 ) プロジェクト名称等	協 力 内 容	実 績					予 定					余 野 筈											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3									
( インドネシア ) 南スマトラ森林造成 ① 協力期間 ( R/D ) 54.11.12 ~ 59.4.11 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 林業総局 ④ 協力概要 ( 第2年次 ) 炭燐等不適正な土地利用により拡散している原生産林地に対する造林技術の開発、改良を試験造林の実施を通じて行うこととしている。 55年度は計画、打ち合せチーム派遣、専門家派遣、機械供与、カウンターパート受け入れを行う。	調査員派遣 専門家派遣 長期 6名 短期 3名 機材 ( 4円 ) 当初計画 ( 117,607 ) 繰越分 ( 7607 ) 新規分 ( 110,000 ) 研修員受入 3名												計画打ち合せ 4名 × 12月 ( 首席顧問、チームリーダー、森林保護、業務調整 ) 1名 × 8月 ( 林業機械 ) 1名 × 6月 ( 苗畑 ) 1名 × 1月 ( 上根分析 ) 2名 × 2月 ( 環境分析、造林実験 ) 専門家派遣状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>継続 (A)</th> <th>新規 (B)</th> <th>帰国 (C)</th> <th>現在在任者数 (A) + (B) - (C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> 林業視察、造林、苗畑		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A) + (B) - (C)	人 数	4	2	0	6
	継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A) + (B) - (C)																			
人 数	4	2	0	6																			
( ブラジル ) 林業研究 ① 協力期間 ( R/D ) 54.4.1 ~ 59.3.31 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 サンパウロ州森林院 ④ 協力概要 ( 第2年次 ) 流域管理及び関連技術の移転を行うとともに現地に適した技術の研究開発を行うものである。55年度は実施設計チームの派遣、専門家派遣、機械供与、カウンターパート受け入れ、モデルインフラ整備事業を実施する。	調査員派遣 専門家派遣 長期 4名 短期 4名 機材 ( 4円 ) 当初計画 ( 62,470 ) 繰越分 ( 5,470 ) 新規分 ( 57,000 ) 研修員受入 2名												実施設計 2名 × 12月 ( チームリーダー、流域管理 ) 2名 × 3月 ( 伐出技術 ) 1名 × 3月 ( 流域管理 ) 1名 × 3.5月 ( モデルインフラ ) 2名 × 3月 ( 伐出技術、リモートセンシング ) 専門家派遣状況 ( 短長期 ) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>継続 (A)</th> <th>新規 (B)</th> <th>帰国 (C)</th> <th>現在在任者数 (A) + (B) - (C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> 流域管理、リモートセンシング 各1名		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A) + (B) - (C)	人 数	2	0	0	2
	継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A) + (B) - (C)																			
人 数	2	0	0	2																			

(農林水産省協力事業-続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績							予			差			分野等									
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3											
<p>(パラグアイ) 林業開発</p> <p>① 協力期間 (R/D) 54.3.16 ~ 59.3.15</p> <p>② 予算費目 農林業協力費</p> <p>③ 相手国受入機関 林野庁</p> <p>④ 協力概要 (第1年次)</p> <p>林業に関する中堅技術者の育成を目的とし、造林、木材加工の分野にかかわる研修を行う。今年度は特に研修に必要な苗圃の整理整備、巡回指導チームの派遣、専門家派遣、機材供与、カウンターパートの受入れを行う。</p>	<p>調査団派遣</p> <p>専門家派遣 長期 5名 短期 2名</p> <p>機材 (4円) 当初計画 (86,147) 繰越金 (4,147) 新規金 (82,000)</p> <p>研修員受入 1名</p>			←→										<p>巡回指導</p> <p>1名×1月(製材) 2名×12月(リーダー、造林) 2名×3月(木工、林業機械) 2名×2月(かんすい施設、天然更新)</p> <p>専門家派遣状況(短、長期)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数(A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>5</td> </tr> </table> <p>森林植測 1名</p>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	2	3	0	5
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																				
人数	2	3	0	5																				
<p>(インドネシア) 浅海養殖</p> <p>① 協力期間 (R/D) 52.8.30 ~ 57.3.31</p> <p>② 予算費目 農林業協力費</p> <p>③ 相手国受入機関 農業研究開発庁</p> <p>④ 協力概要 (第3年次)</p> <p>本プロジェクトは、魚貝類養殖を開発し、労働生産性を確保し、零細漁民の雇用機会を促進するため技術指導及び研究を行っている。54年度においてはモデルインフラ整備等機材供与、研修員受入等を行った。</p>	<p>調査団派遣</p> <p>専門家派遣 長期 5名 短期 3名</p> <p>機材 (4円) 当初計画 (62,202) 繰越金 (12,202) 新規金 (50,000)</p> <p>研修員受入 一般 3名</p>							←→					<p>計画打合せチーム</p> <p>4名×12月(リーダー、魚類養殖(2)、貝類養殖) 1名×12月(業務調整) 1名×0.5月(検査分類) 1名×1月(一般養殖) 1名×1月(貝類分類)</p> <p>専門家派遣状況(短、長期)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数(A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> </table> <p>3名×3月(魚類(2)、貝類)</p>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	4	3	2	5	
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																				
人数	4	3	2	5																				

(農林水産業協力事業-続き)

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績						予 定			分 野 等																
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3														
(今 日) 水産養殖 ① 協力期間 (R/D) 58.10.2 ~ 59.10.1 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 経済開発復興省 ④ 協力概要 (第1年次) 本プロジェクトは北半球のシロサケを南半球に移すという大きな計画であるが、協力の第1年次である今年度は、稚魚の飼育及び環境調査に力を入れている。	調査員派遣 専門系派遣 長期 6名 短期 2名 機材 (4円) 当初計画 (60,000) 繰越金 ( 0) 新規分 (60,000)													巡回指導 1名×11月(増養殖) 2名×9月(回帰調査・増養殖) 1名×7.5月(環境調査) 1名×5月(業務調整) 1名×2月(増養殖) 1名×1月(モデルインフラ設計) 1名×5月(モデルインフラ施工管理)													
	研修員受入 一般 2名														専門系派遣状況 (短・長期) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数(A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>5</td> </tr> </table>					継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	1	4	0
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																							
人数	1	4	0	5																							
(ミクロネシア) 漁業開発計画 ① 協力期間 (R/D) 55.4.1 ~ 56.3.31 ② 予算費目 農林業協力費 ③ 相手国受入機関 太平洋諸島信託統治地域高等事務官 南太平洋課 ④ 協力概要 (第3年次) カツオ釣り漁業のための餌魚の採捕・養殖につき1年間のフォローアップ協力を行う。	調査員派遣 専門系派遣 長期 7名 短期 8名 機材 (4円) 当初計画 (27,000) 繰越金 ( 0) 新規分 (27,000)													計画行合ヒ 2名×12月(餌魚採捕準備、器具) 3名×1月(4-ムリ-ダ-、養殖、調整員) 2名×11月(4-ムリ-ダ-、生物調査) 1名×1月(生物学調査) 2名×1月(生物学調査(2)) 2名×5月(養殖(2)) 3名×1月(生物学調査(2)、機関修理)													
	研修員受入 1名														専門系派遣状況 (短・長期) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数(A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> </table>					継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人数	5	5	6
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																							
人数	5	5	6	4																							

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績							予定					分野等										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3											
(スリランカ) 高等水産講習所 ① 協力期間 (R/D) 47.4.16 ~ 58.4.15 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 漁業省 ④ 協力概要 (第7年度) 沖合、遠洋漁業技術者の養成のための海上 訓練について、1年間のフォローアップ協力を を行う。	調査団派遣													首席顧問、漁務指導、機関指導、漁務長 漁法、漁務長、機関、業務調整  専門家派遣状況 (短、長期) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td>継続 (A)</td> <td>新規 (B)</td> <td>帰国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人数	8	0	4	4
		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																			
	人数	8	0	4	4																			
	専門家派遣 長期 8 名 短期 名																							
機材 (千円) 当初計画 (8,000) 繰越分 (5,400) 新規分 ( )			●	△						○		X												
研修員受入 2 名																								
(ニューギニア) 国立漁業センター ① 協力期間 (R/D) 53.7.1 ~ 56.6.30 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 農漁業省水産局 ④ 協力概要 (第3年度) 国立漁業センターにおいて水産高校教師約 50名に対しレトリール、延縄、旋網、沿岸漁 業等につき座学及び海上実習により、再教育 訓練を行う。	調査団派遣	←												巡回指導チーム エリアリレーションチーム  チームリーダー  専門家派遣状況 (短、長期) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td>継続 (A)</td> <td>新規 (B)</td> <td>帰国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> </table>		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人数	6	2	1	7
		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																			
	人数	6	2	1	7																			
	専門家派遣 長期 6 名 短期 2 名	←													→									
機材 (千円) 繰越分 (5,400) 新規分 (76,000)	←							マフロ延縄 業務調整 トロール漁業 業務調整 旋網漁業					→											
研修員受入 0 名					←	→	延縄						→											
										←	→	電子機器												
										←	→	視察研修員 1 名												
										←	→	延縄 トロール各 1 名												

(題名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績						予 定						分 野 等						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3							
(パル - ) 水産加工センター 協定 ① 協力期間 (R/D) 50.4 ~ 57.10.12 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 漁業省水産技術研究所 ④ 協力概要(第5年次) 昭和54年8月の施設、建物の完成に伴い、 昭和55年より、本格的な試験研究活動を開始し、 本年10月から応用技術の移転を目的として2年間の協力延長を行う。	調査員派遣													エバリュエーション  首席顧問、缶詰製造、練製缶製造、冷凍冷蔵、化学分析、細菌検査、 冷凍機械 業務調整 (但し、練製品、冷凍冷蔵についてはそれぞれ、 10月、11月より他分野との兼任となる。)  一般加工 冷凍調整 一般加工 加工機械 専門家派遣状況(短長期)						
	専門家派遣 長期 9名 短期 1名														総数(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)		
	機材(4円) 当初計画 (131,000) 繰越分 (30,000) 新規分 (101,000)	△							○	X						人 数	8	1	2	7
	研修員受入 3名		●		△					○	X									

# 8 鉱工業開発協力事業

(注) 専門家人数は予定も含む。

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績												予 定	介 野 算	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
(インドネシア) インドネシア・建材 ① 協定期間 (R/D) 53.7.19 ~ 57.7.18 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 公共事業省建築研究所 (DBR) 工業省セメント研究所 (RI) ④ 協力概要 (第3年次) 地場資源を利用して建材開発に関する協力で、55年度は前年度に引き続き、パルプセメントボード製造パイロットプラントを供与する。 長期専門家2名派遣中である。	調査団派遣													←→	5名×15日 (巡回指導)	
	専門家派遣 継続 新規 長期 0名 2名 短期 0名 10名					←										1名×20年 (4-7・アドバイザー) 1名×20年 (パルプセメントボード)
	機材 (4円) 当初計画 (98,510) 繰越分 (18,450) 新規分 (80,060)														←→	3名×3カ月 (機材提供) 2名×2カ月 (運転指導) 5名×3カ月 (機材提供)
	研修員受入 3名														←→	5名×3カ月 (機材提供)
		専門家派遣状況 (短、長期)														
		継続 (A) 新規 (B) 帰国 (C) 現在在籍者数 (A)+(B)-(C)														
		人 数 0 2 0 2														
		←→												2名×6カ月 (パルプセメントボード) 1名×1カ月 (人工重量骨材)		
(フィリピン) フィリピン・パーティクルボード ① 協定期間 52.3.18 ~ 57.1.31 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 杯産物開発研究所 (FORPRIDECON) ④ 協力概要 (第4年次) 地場資源の再生利用を図り、建材及び家具材向けのパーティクルボードの工業化を目的とした協力である。 55年度はパイロットプラントの最終供与を行い、長期専門家を派遣し技術移転を行う。	調査団派遣													←→	5名×15日 (巡回指導)	
	専門家派遣 長期 2名 短期 11名					←→								←→	2名×20年 (4-7・アドバイザー、製造管理各1名) 1名×4.5カ月 (機材提供) 1名×40日 ( " ) 1名×10日 (機材提供) 1名×30日 ( " ) 3名×30日 ( " ) 1名×3.5月 ( " ) 1名×30日 (製造技術) 1名×20日 ( " ) 1名×30日 (品質管理)	
	機材 (4円) 当初計画 (104,610) 繰越分 ( 0 ) 新規分 (104,610)														←→	
	研修員受入 3名														←→	3名×50日 (製品開発)
		継続 (A) 新規 (B) 帰国 (C) 現在在籍者数 (A)+(B)-(C)														
		人 数 3 3 5 1														

● 実施協議 ○ 船 積 実績については実線 ←→  
△ 購込請求 × 現地派遣 予定 " 点線 ←→

(鉱工業開発協力事業 続き)

(注) 専門家人数に予定も含む。

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績							予 定			分 野 等											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3									
(ボリビア) ボリビア・亜鉛等有用鉱物回収 ① 協力期間 (R/D) (R/D) 52.2.21 ~ 55.2.20 (フォローアップ) 55.2.21 ~ 56.2.20 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 鉱山公社 (COMIBOL) ④ 協力概要 (第4年次) ボリビア政府鉱山公社所有のボリバル鉱山に対し、複種硫化鉱から錫、亜鉛、銅等の有用鉱物を有効に回収するための協力 協力期間 (R/D) は終了したが、ボリビア側の要請により、1カ年間フォローアップを行うことになった。	調査団派遣 専門家派遣 継続 新規 長期 0名 1名 短期 0名 1名 機材 (4冊) 当初計画 繰越分 ( 0 ) 新規分 ( 0 ) 研修員受入 / 名												1名×1カ年 (復鉱技術) 1名×3カ月 ( ) 専門家派遣状況 (短・長期) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続 (A)</td> <td>新規 (B)</td> <td>帰国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A) + (B) - (C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table> 1名×20日 (観察)		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A) + (B) - (C)	人数	0	2	1	1
	継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A) + (B) - (C)																			
人数	0	2	1	1																			
(スリランカ) 鉱正技術開発 ① 協定期間 (R/D) R/D 未署名 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 工業科学省工業開発庁 (IDB) ④ 協力概要 スリランカに鉱正技術開発センターを設立し地域開発に役立つ中小規模鉱正技術を研究開発するとともにそれらの技術を普及させることにより同国の中小工業の開発促進に寄与することを目的とする。55年度は長期調査員を派遣しその詳細に基づいて実施協議チームを派遣する。	調査団派遣 専門家派遣 長期 0名 0名 短期 0名 5名 新規 0名 5名 機材 (4冊) 当初計画 ( 0 ) 繰越分 ( 0 ) 新規分 ( 0 ) 研修員受入 0 名											4名×20日 (実施協議) 1名×40日 (工業開発) 2名×33日 (金属加工及び電気機械) 2名×15日 (建築設計及び企画調整) 1名×10日 (工業開発) 長期調査員 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続 (A)</td> <td>新規 (B)</td> <td>帰国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A) + (B) - (C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </table>		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A) + (B) - (C)	人数	0	5	5	0	
	継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A) + (B) - (C)																			
人数	0	5	5	0																			



(鉱工業開発協力事業—続き—)

(注) 専門家人数は予定も含む

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績												予 定	分 野 等														
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																
(ブラジル) ブラジル・パラナ州中小工業開発 ① 協定期間 (R/D) 55.10.2~59.10.1 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 パラナ州商工局パラナ技術研究所 (TECPAR) ④ 協力概要 (第1年次) パラナ州工業技術センター設立構想を支援し、金属・機械、電気・電子各分野におけるパラナ州中小工業開発促進に貢献することを目標とし、特に、州間企業に対して、部品等の試験検査、技術指導及び人材の供給を行う。55年度はR/D署名を実施し、センター設立準備及び建築の専門家を送出する。	調査団派遣															5名×18日 (実施協賛)													
	専門家派遣 長期 0名 新規 0名 短期 0名 2名																2名×3日 (センター設立準備、建築)												
	機材 (千円) 当初計画 ( 0 ) 繰越分 ( 0 ) 新規分 ( 0 )																専門家派遣状況 (短・長期) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数(A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </table>					継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人 数	0	1	0
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																									
人 数	0	1	0	1																									
研修員受入 3名																3名×2日 (視察、準高級)													
(タイ) 天然ゴム品質改善 ① 協定期間 (R/D) 53.4.1~57.3.31 (2年間延長) ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 農業協同省ゴム研究所 ④ 協力概要 (第4年次) 日本・アセアン合成ゴムフォーラム第3回事務レベル会合で、アセアンの主要輸出品目である天然ゴムの品質向上のための協力要請があり、我が国はタイのゴム研究所に対し、品質管理の促進、既存産業に対する現場指導及び人材養成を目的とし協力するもので、55年度は前年度に引き続き協力を行う。	調査団派遣															/名×/年/ヶ月 (チーフ・アドバイザー) /名×/年/ヶ月 (品質管理)													
	専門家派遣 長期 2名 新規 2名 短期 0名 5名																/名×3ヶ月 (チーフ・アドバイザー) /名×1.5年 (品質管理)												
	機材 (千円) 当初計画 (81,845) 繰越分 (5,942) 新規分 (75,903)																2名×19日 (保守管理) 専門家派遣状況 (短・長期) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在在任者数(A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </table>					継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)	人 数	2	2	2
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在在任者数(A)+(B)-(C)																									
人 数	2	2	2	2																									
研修員受入 2名																2名×3ヶ月 (機材保守)													

(注) 専門家人数は予定も含む

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績												分野等	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
(チリ) 銅製錬 ① 協定期間 (R/D) 52.11.29 ~ 56.3.16 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 鉱山省中央鉱山冶金研究所(CIMN) ④ 協力概要 (第4年次) チリの銅産業振興のため、上記機関に次の機能を付与する。i. 研究開発能力の促進。 ii. 既存製錬所に対する共同体制の確立。 iii. 人材の養成。55年度は、前年度に引き続き上記の協力を実施する。	調査団派遣 専門家派遣 継続 新規 長期 4名 0名 短期 0名 2名 機材 (千円) 当初計画 ( ) 繰越分 (24,882) 新規分 (24,852) 研修員受入 2名														5名×25日 (エバリュエーション) 1名×2年7月 (チーフ) 1名×2年 (電鍍) 1名×1年 (電頭) 1名×1年 (分析) 2名×2ヶ月 (品質管理、機材提供) 専門家派遣状況 (短・長期)
	継続 (A) 新規 (B) 帰国 (C) 現在在任者数 (A)+(B)-(C) 人数 // 0 1 3 2名×2月 (熔錬)														
(ペルー) 鉱山保安 ① 協定期間 (R/D) 52.10.28 ~ 56.12.31 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 動力鉱山省鉱山総局 (DGM) 地質鉱山製錬研究所 (INGEMMET) ペルー中央鉱山公社 (CENTROMIN) ④ 協力概要 (第3年次) 基礎的保安技術の移転、保安技術の生産技術への応用、鉱山保安体制の整備の3分野からなる技術協力をを行う。 55年度は産師チーム、浮選機の掘削専門家及び製錬保安技術専門家の派遣を行う。	調査団派遣 専門家派遣 継続 新規 長期 4名 1名 短期 0名 6名 機材 (千円) 当初計画 (73,225) 繰越分 (70,925) 新規分 (27,300) 研修員受入 一般 3名														4名×12月 (チーフ、選鉱、保安体制、堆積場) 1名×12月 (操縦) 1名×1月 (操縦) 3名×21日 (産師指導) 3名×1.5ヶ月 (製錬保安技術) 専門家派遣状況 (短・長期)
	継続 (A) 新規 (B) 帰国 (C) 現在在任者数 (A)+(B)-(C) 人数 5 1 1 5 3名×1.5ヶ月 (塵肺対策)														

(注) 専門家人数は予定も含む

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績							予			延			分野等
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
(ペーリ) 家内工業育成 ① 協定期間(R/D) 55.10.9~59.10.8 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 商工省家内工業局 ④ 協力概要(第1年次) 家内工業の振興を目的とした既製服分野及び手すき織分野の人材養成、技術指導、初年度へのアドバイス等、地場家内工業育成に資する技術協力。 昭和55年度の協力計画; 短期専門家2名派遣、研修員2名受入	調査団派遣 専門家派遣 継続 新規 長期 0名 0名 短期 0名 4名 機材(千円) 当初計画(4,000) 繰越分(0) 新規分(4,000) 研修員受入 2名					←→ 計画打合せ		←→ 実施協議							4名×2ヶ月(準備専門家……パターン、縫製、抄造技術、品質管理) 専門家派遣状況(短・長期) 継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C) 人数 0 0 0 0 2名×4ヶ月(既製服、視察)
	(ブラジル) 鉱物資源開発 ① 協定期間(R/D) 53.4.1~56.3.31 ② 予算費目 産業開発協力費 ③ 相手国受入機関 鉱山勸励省鉱産局(DNPM) ④ 協力概要(第2年次) 国家非鉄金属鉱業開発計画を策定し、国内の自給を目指すため既存データの解析、開発の経済性の検討、鉱山開発計画立案等の協力をを行う。 55年度は前年度に引き続き協力を実施する。	調査団派遣 専門家派遣 継続 新規 長期 5名 0名 短期 0名 0名 機材(千円) 当初計画( ) 繰越分( ) 新規分(1,700) 研修員受入 高級(準高級) 4名													3名×12月(精錬1名、鉱害防止1名、探査1名) 2名×6.33月(探査1名、選鉱1名) 専門家派遣状況(短・長期) 継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C) 人数 5 0 0 5 4名×1月 鉱山視察(準高級)

(注) 専門家人数は予定も含む

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定						分野等										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3											
<p>(メキシコ)</p> <p>メキシコ選鉱、製錬技術育成</p> <p>① 協定期間 (R/D) 54.12.5 ~ 58.12.4</p> <p>② 予算費目 産業開発協力費</p> <p>③ 相手国受入機関 国有財産・工業振興省 鉱業探検局、選鉱製錬研究所</p> <p>④ 協力概要 (第2年次) 当研究所に対して研究開発、現場指導能力 人材養成の3機能を付与するための技術協力 55年度は9月に製錬、選鉱分野の2名の 長期専門家を派遣し、56年2月にチーフア ドバイザー、分析分野の2名の長期専門家を 派遣する。</p>	<p>調査団派遣</p> <p>専門家派遣 継続 新規 長期 0名 4名 短期 0名 0名</p> <p>機材 (千円) 当初価 (9,700) 繰越分 (0) 新規分 (17,598)</p> <p>研修員受入 0名</p>							新規 2名				新規 2名	2名×6.5月 (製錬、選鉱) 2名×2月 (チーフアドバイザー、分析)	<p>専門家派遣状況 (短・長期)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続 (A)</td> <td>新規 (B)</td> <td>帰国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> </table>		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人数	0	4	0	4
	継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																				
人数	0	4	0	4																				
<p>(タンザニア)</p> <p>キリマンジャロ州中小工業開発</p> <p>① 協定期間 (R/D) 53.9.13 ~ 57.9.12</p> <p>② 予算費目 産業開発協力費</p> <p>③ 相手国受入機関 キリマンジャロ州政府</p> <p>④ 協力概要 (第3年次) キリマンジャロ総合開発計画実施の一環と して、キリマンジャロ工業開発センターを設 立し、現場指導、試験的生産及び人材の訓練 を行うことにより、キリマンジャロ州の中小 規模工業の振興を指導する技術協力。 55年度はA-1フォームに基づき、2月 に6名の長期専門家を派遣する。</p>	<p>調査団派遣</p> <p>専門家派遣 新規 長期 6名</p> <p>機材 (千円) 当初価 (15,118) 繰越分 (2,000) 新規分 (13,118)</p> <p>研修員受入 1名</p>											新規 6名	6名×1.5月 (チーフアドバイザー、機械、鋳造、鍛造、窯業、フリ ケット)	<p>専門家派遣状況 (短・長期)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続 (A)</td> <td>新規 (B)</td> <td>帰国 (C)</td> <td>現在在任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table>		継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)	人数	0	6	0	6
	継続 (A)	新規 (B)	帰国 (C)	現在在任者数 (A)+(B)-(C)																				
人数	0	6	0	6																				

(注) 専門家人数は予定を含む

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績						予 定						分 野 等															
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																
(フィリピン) 金属鋳造技術センター ① 協定期間 (R/D) 55.7.28~59.7.27 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 国家科学開発庁(NSDB)の金属 工業研究開発センター(MIRDC) ④ 協力概要(第1年次) 具体的な技術指導分野は自硬性鋳造、 ダイカスト、シェルモールド、インベストメ ントカストの4分野である。 55年度は実施協議チームを派遣しR/D 署名交換を行なった。	調査団派遣				←									5名×15日(実施協議)															
	専門家派遣 継続 新規																												
	長期 0名 1名 短期 0名 2名																												
	機材(千円) 当初計画(10,000) 繰越分( ) 新規分(10,000)																												
(イラク) 電気産業訓練センター ① 協定期間 (R/D) 50.9.7~56.7.31 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 鉱工業省工業開発局(SOID) ④ 協力概要(第6年次) イラク国における(1)エレベーター (2)冷凍 空調機器、(3)一般電子機器の各コースでの訓 練によって人材養成を図る。 55年度は巡回指導チームの派遣を行な った。	調査団派遣		←											3名×15日(巡回指導)															
	専門家派遣 継続 新規																												
	長期 4名 1名 短期 0名 1名																												
	機材(千円) 当初計画(12,000) 繰越分( ) 新規分(12,000)																												
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">専門家派遣状況 (短・長期)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在々任者数 (A)+(B)-(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>															専門家派遣状況 (短・長期)						継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在々任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	0	3	0	3
専門家派遣状況 (短・長期)																													
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在々任者数 (A)+(B)-(C)																									
人 数	0	3	0	3																									
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">専門家派遣状況 (短・長期)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在々任者数 (A)+(B)-(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>															専門家派遣状況 (短・長期)						継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在々任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	3	4	1	6
専門家派遣状況 (短・長期)																													
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在々任者数 (A)+(B)-(C)																									
人 数	3	4	1	6																									

(注) 専門家人数は予定も含む

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定			分野等				
		4	5	6	7	8	9	10	11	12		1	2	3	
(エジプト) 繊維研究開発センター ① 協定期間(R/D) R/D未署名 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 国立研究センター ④ 協力概要(第3年次) エジプト政府は主要な輸出産業である繊維産業の振興を意図し、NRCの繊維部門の拡充強化を行うため我が国に協力を要請してきた。53年度に事前調査団を派遣した結果、協力の成果が期待出来るとの結論が出たが建物建設の問題があった。今年度に予算のめどがついたのでR/Dの署名を行う。	調査団派遣							←	→					5名×16日(実施協議)	
	専門家派遣 継続 新規														2名×2ヶ月(建設)
	機材(千円) 当初計画( 0 ) 繰越分( 0 ) 新規分( 0 )														専門家派遣状況(短・長期)
	研修員受入 2名														2名×14日
(ビルマ) 冶金研究開発センター ① 協定期間(R/D) 55.5.14~59.5.13 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 鉱山省地質調査局(D.G.S.E.) ④ 協力概要(第1年次) ビルマの金属鉱物資源の開発に必要な基礎研究並びに実用化試験を実施し、併せて、分析、選鉱、製錬各分野における技術者の養成、訓練を行う冶金研究開発センターの設立に協力する。 55年度は日本側無償資金協力によるセンター建物が完成し、センター運営に必要な機材を供与し、前記各分野の専門家を派遣する。	調査団派遣													4名×25日(計画打合せ)	
	専門家派遣 継続 新規														1名×4月(製錬) 3名×2月(選鉱分析、鉱物研究、選鉱一般)
	機材(千円) 当初計画(36,185) 繰越分( 0 ) 新規分(36,185)														1名×4月(リーダー) 1名×2月(分析一般)
	研修員受入 1名(準高級) 3名(一般)														4名×3ヶ月(準高級1名、一般3名)
											専門家派遣状況(短・長期)				
											継続(A) 新規(B) 帰国(C) 現在在任者数(A)+(B)-(C)				
											人数 0 0 0 0				

(注) 専門家人数は予定も含む

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実 績							予 定			分 野												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3										
(インドネシア) スマトラ化学工業研究開発センター ① 協定期間(R/D) 昭和56年7月より4年の子定 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 工業省教育訓練センター局 ④ 協力概要 スマトラ地域の化学工業の振興に資するた めの化学工業関連の(1)中堅技術者の養成、(2) 技術指導サービス、(3)技術開発の機能を有す るセンター方式技術協力。 昭和55年度の協力は、短期専門家3名 派遣。	調査団派遣 専門家派遣 長期 0名 短期 3名 機材(千円) 当初計画( 0) 繰越分( 0) 新規分( 0) 研修員受入 0名			←										} 2名×1.5月(カリキュラム編成専門家---応用化学、化学工学) 1名×1ヶ月( " ---機械工学)										
	専門家派遣状況(短・長期)														<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在々任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在々任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	0	0	0
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在々任者数 (A)+(B)-(C)																				
人 数	0	0	0	0																				
(フィリピン) 産業研究開発センター ① 協定期間(R/D) 57.7.16~57.7.15 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 国立科学技術研究所(NIST) ④ 協力概要(第5年次) NIST工業研究センターの産業部を拡大 し、産業研究開発センターを設立して研究開 発、地場産業の振興、人材の養成を行う。 55年度は研究開発から地場産業の振興へ 協力の中心を移す。	調査団派遣 エバリュエーション チーム 専門家派遣 継続 新規 長期 3名 3名 短期 0名 1名 機材(千円) 当初計画(10,000) 繰越分( 3,700) 新規分(23,941) 研修員受入 4名			↔										4名×1.5日(エバリュエーションチーム) 3名×1.2日(応用鉱物、原料精製、窯業生産技術) 3名×8.5日(チーフアドバイザー、物理試験、プログラム分析) 3名×3.5日( " " " ) 1名×2.5日(機械据付)										
	機材据付														<table border="1"> <tr> <td></td> <td>継続(A)</td> <td>新規(B)</td> <td>帰国(C)</td> <td>現在々任者数 (A)+(B)-(C)</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在々任者数 (A)+(B)-(C)	人 数	3	3	4
	継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在々任者数 (A)+(B)-(C)																				
人 数	3	3	4	2																				

(注) 専門家人数は予定も含む

(国名) プロジェクト名称等	協力内容	実績						予定						分野	算										
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3												
(マレーシア) 金属工業技術 ① 協定期間(R/D) 53.8.11~57.8.10 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 科学技術環境省標準工業研究所 (SIRIM) ④ 協力概要(第2年次) (1)巡回指導(2)試験検査(3)情報提供(4)試験加工の指導員養成の機能をもつ金属工業技術センターを設置し、プレス金型、プレス加工、溶接、メッキの分野において技術協力を実施し、マレーシアの金属部品工業の育成を図る。55年度は金型製作用及びメッキ用機材を供与し、それら機材の据付専門家を派遣する。	調査団派遣													4名×20日(巡回指導)	6名×2月(総括、メッキ、溶接、プレス加工、プレス金型、情報) 6名×1.5月(機材据付) 6名×1ヶ月(機材据付)  専門家派遣状況(短・長期) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>継続(A)</th> <th>新規(B)</th> <th>帰国(C)</th> <th>現在タ任者数(A)+(B)-(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在タ任者数(A)+(B)-(C)	人数	6	0	0	6
		継続(A)	新規(B)	帰国(C)	現在タ任者数(A)+(B)-(C)																				
	人数	6	0	0	6																				
	① 協定期間(R/D) 53.8.11~57.8.10 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 科学技術環境省標準工業研究所 (SIRIM) ④ 協力概要(第2年次) (1)巡回指導(2)試験検査(3)情報提供(4)試験加工の指導員養成の機能をもつ金属工業技術センターを設置し、プレス金型、プレス加工、溶接、メッキの分野において技術協力を実施し、マレーシアの金属部品工業の育成を図る。55年度は金型製作用及びメッキ用機材を供与し、それら機材の据付専門家を派遣する。	専門家派遣 長期 6名 短期 12名																							
	① 協定期間(R/D) 53.8.11~57.8.10 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 科学技術環境省標準工業研究所 (SIRIM) ④ 協力概要(第2年次) (1)巡回指導(2)試験検査(3)情報提供(4)試験加工の指導員養成の機能をもつ金属工業技術センターを設置し、プレス金型、プレス加工、溶接、メッキの分野において技術協力を実施し、マレーシアの金属部品工業の育成を図る。55年度は金型製作用及びメッキ用機材を供与し、それら機材の据付専門家を派遣する。	機材(千円) 当初計画(145,185) 繰越分(12,185) 新規分(133,000)																							
① 協定期間(R/D) 53.8.11~57.8.10 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 科学技術環境省標準工業研究所 (SIRIM) ④ 協力概要(第2年次) (1)巡回指導(2)試験検査(3)情報提供(4)試験加工の指導員養成の機能をもつ金属工業技術センターを設置し、プレス金型、プレス加工、溶接、メッキの分野において技術協力を実施し、マレーシアの金属部品工業の育成を図る。55年度は金型製作用及びメッキ用機材を供与し、それら機材の据付専門家を派遣する。	研修員受入 6名																								
① 協定期間(R/D) 53.8.11~57.8.10 ② 予算費目 技術協力センター費 ③ 相手国受入機関 科学技術環境省標準工業研究所 (SIRIM) ④ 協力概要(第2年次) (1)巡回指導(2)試験検査(3)情報提供(4)試験加工の指導員養成の機能をもつ金属工業技術センターを設置し、プレス金型、プレス加工、溶接、メッキの分野において技術協力を実施し、マレーシアの金属部品工業の育成を図る。55年度は金型製作用及びメッキ用機材を供与し、それら機材の据付専門家を派遣する。																									



# 9 青年海外協力隊事業

(1) 青年海外協力隊・昭和55年度

区分	月別		実績				
	4	5	6	7	8	9	
1 募集・広報	募集 55/3.4次隊(4/1~5/31)						
2 選考(第一次地方選考) (第二次選考)				筆記試験 (7/5)	面接試験 (8/4~8/9)		
3 訓練	(55/1次隊) 定員100名 (4/1~4/30)		約7名 (5/1~7/10)				
			(55/2次隊) 定員96名 (6/15~7/14)		約7名 (7/15~9/18)		
4 派遣(現地語訓練) (海外協力活動)	(約1ヶ月) 54/1後期組(4/4~4/30) (任期2年)				(約1ヶ月) 55/1次隊(8/5~8/30) (任期2年)		
5 隊員プロジェクト調査 (派遣前調査) (実施調査) (巡回指導)							通年
6 地方対策(事業強化)							通年
7 帰国隊員対策(帰国)	(52/1後期組)				(53/1前期組)		通年
(その他)							通年
8 その他 ① 隊員行会 ② 帰国隊員委員会 ③ 新規募集団		(第25回) (6/5)		55/1次隊 (7/10)		55/2次 (7/18)	
				PNG (パプア・ニュー・ギニア)			

派遣課

区分 派遣国	年間計函数	実 績		小 計 (A+B)	(C) 当年度帰国者累計	9月末現在在任者数	備 考
		(A) 前年度よりの継続者	(B) 当年度派遣者累計				
<b>アジア</b>	<b>122</b>	<b>220</b>	<b>61</b>	<b>281</b>	<b>1322</b>	<b>247</b>	
ネパール	19	39 (2)	10	49	147	43	
インド					131	0	
バングラデシュ	24	48 (1)	6	54	57	47	
ラオス					250	0	
カンボジア					16	0	
マレーシア	40 (1)	51	24 (1)	75	343	69	
フィリピン	36	82 (3)	21	103	378	88	
スリランカ	3						
<b>中近東</b>	<b>28</b>	<b>77</b>	<b>13</b>	<b>90</b>	<b>172</b>	<b>74</b>	
シリア	11 (1)	20	3	23	33	17	
チュニジア	11 (1)	23 (1)	8 (1)	31	38	23	
モロッコ	6	34	2	36	121	34	
<b>アフリカ</b>	<b>187</b>	<b>308</b>	<b>80</b>	<b>388</b>	<b>869</b>	<b>329</b>	
エチオピア	5	6	5	11	79	8	
ケニア	50 (1)	86 (3)	26 (1)	112	226	103	
タンザニア	21 (1)	36 (3)	11 (1)	47	268	37	
マラウイ	77	98 (1)	23	121	163	106	
ガンビア	6	40	3	43	104	37	
ガーナ	25	35	9	44	29	31	
リベリア		7		7	0	7	
セネガル	3		3	3			

区分 派遣国	年間計画数	実績			(C) 当年度帰国者累計	9月末現在在任者数	備考
		(A)前年度よりの継続者	(B)当年度派遣者累計	小計(A+B)			
中南米	48	79	50	109	109	82	
ホンジュラス	24	33 (2)	12	45	13	38	
エルサルバドル					74	0	
コスタリカ	5	18 (1)	4	22	14	16	
ペルー	4	1	3	4	0	3	
ボリビア	7	9 (1)	7	16	6	6	
パラグアイ	8	18	4	22	2	19	
大洋州	21	21	15	36	40	28	
P N G	8		7	7	0	3	
ソロモン		2		2	0	2	
西サモア	11	17 (2)	6	23	32	21	
トンガ	2	2	2	4	8	2	
合計	406 (5)	705 (20)	199 (4)	904	2532	760	

(3) 55年度訓練期間

	広尾	駒ヶ根
1次	4/1 ~ 4/27 7/8 ~ 7/10	5/1 ~ 7/7 7/下旬出発
2次	6/10 ~ 7/6 7/17 ~ 7/19	7/10 ~ 9/15 19/下旬出発
3次	9/20 ~ 10/16 10/17 ~ 10/19	12/20 ~ 12/28 1/下旬出発
4次	12/1 ~ 12/27 1/4 ~ 1/6	1/7 ~ 3/15 4/下旬出発

※ (B)は2次隊までに派遣された人数

( )内数字はシニア隊員